

## 令和4年度 愛心こども園の事業計画と主な取り組み

はじめに令和4年4月1日より「社会福祉連携推進法人」がスタートします。この新しい制度が検討された背景には、人口の減少や高齢化、地域社会の脆弱化などといった社会構造の変化や福祉ニーズの多様化、複雑化が進んでいる現状であったと認識されています。ところで、話は変わりますが、当愛心こども園は「幼保連携型認定こども園 愛心こども園」として装いも新たにスタートしてから3年目を迎えました。そのような中で、乳幼児期が生涯にわたる身体的・精神的・社会的発達の基礎を培う極めて重要な時期であり、かつ、こども園で乳幼児がその生活時間の大半を過ごすところであるという視点にたち、家庭や地域社会と十分な連携をとって、情緒の安定した場所を提供すると共に、より良い人間的な発達を図るように努めています。

そのようなことを踏まえて、令和4年度 当法人は創立40周年を迎えて、心も新たに全ての子ども達の健やかな育成、子どもの最善の利益を保障していく中から更に子どもと家庭に優しい環境づくりを展開し、地域の子育てセンターとしての役割を十分に担い、多様なニーズに応じて参りたいと考えております。

更に、令和4年度も一人ひとりの細やかな教育・保育に力を注ぎ、特別保育事業である延長保育、発達支援保育、一時預かり保育、地域活動事業、園庭開放、子育て相談等、ニーズの高い保育サービスに取り組んでいきます。そして昨今の著しく変わる保育制度改革に対しても迅速な対応ができるよう心がけます。このように毎年出生率も低下していく中で、教育・保育システムの多様化、弾力化に努め、量的には待機児童の解消に積極的に取り組み、質的には保護者の安心と信頼に応えられるよう子育てニーズに応じて園独自で職員の資質向上のための園内研修や自己評価、並びにこども園の自己評価や第三者評価にも積極的に努めていきます。尚、2018年度から新保育所保育指針を基にした保育が展開されていることから、子ども園の役割、保育教諭のキャリアパスなどのシステムに加えて、資質向上が益々期待されている中で、令和4年度も仕事の役割と専門性を生かすべく子育ての担い手としての役割を十分果たしていけるよう職員一丸となって取り組んでいきたいと思っております。尚、目標達成に当たっては、次の諸事項について配慮しながら進めていきたいと思っております。

- ・十分に養護と教育の行き届いた環境のもとに、くつろいだ家庭的な雰囲気の中で情緒の安定を図ります。
- ・子どもの生涯を通じた健康の基礎をつくるための食育や積極的な健康づくり等を目指します。

## 令和4年度 第2 愛心こども園の事業計画と主な取り組み

はじめに

「第2 愛心こども園」として3年目を迎える令和4年度、同様にコロナ禍の教育保育も3年目を迎えることになり、身の引き締まる思いしておりますが、引き続き法人理念である「思いやり保育」を基本とした園運営のもと、当園の教育・保育理念である「保育は愛なり、愛は力なり」…入所する全ての乳幼児の最善の利益を図り、個としての人権、人格を尊重する…という教育・保育理念に込められている深い思いを、全職員で共通理解した上で、引き継いでいきます。

更に、乳幼児期が生涯にわたる身体的・精神的・社会的発達の基礎を培う極めて重要な時期であり、園でその生活時間の大半を過ごすところであるという視点にたち、家庭や地域社会と十分な連携をとって、情緒の安定した場所を与えると共に、より良い健やかな発達を図ることができるよう、令和4年度も気を引き締めて取り組んでいきたいと思っております。

次に保護者支援においては、これまで同様、全ての子どもたちの健やかな育成と子どもの最善の利益を保障していく中から、1号認定児も含めた子どもと保護者に優しい環境づくりを展開し、コロナ禍の子育てに不安を感じたり、様々なストレスを感じている保護者にもしっかりと寄り添いながら、共に子育てをしていくことができるよう、地域の子育てセンターとしての役割を十分に担っていきます。

3つめに職員の育成面においては、処遇改善2における、専門リーダーや分野別リーダーの役割を各職員で共通理解しながら、責任の重い保育現場で、日々懸命に働く職員の大きな励みになることができるよう努め、今年度も職員一人一人が自己を高める為の学びの姿勢をしっかりともち、仕事の役割と専門性を生かすことができるよう、職員一丸となって取り組んでいきたいと思っております。

また、27年度から取り組んでいる「人材育成支援チューター制度」も積極的に実践しながら、働きやすい職場づくりにおいてよい効果を得ることができるよう継続していきたいと思います。

3年目を迎えるコロナ禍の状況の中、試行錯誤と工夫を重ねながら行事を行ってきた経緯を踏まえて、令和4年度も保育の質と子どもたちの活動や経験を確保しつつ、職員の負担軽減を図るよう努めたいと思います。

尚、教育・保育の目標達成に当たっては次の諸事項を基本にしながら進めていきます。

- ・十分に養護の行き届いた環境のもとに、温かい家庭的な雰囲気の中で情緒の安定を図る。
- ・一人一人の特徴を伸ばし、自己の能力が十分に発揮できるような機会を与え、個性豊かな人格形成に努めるとともに、基本的な生活習慣や態度を養う。
- ・多様な表現活動を通して豊かな表現力、想像力、感性豊かな創造性を育てる。
- ・支援が必要な子もそうでない子も、自然な形で仲間意識や協調性を育み、思いやりの心、我慢強く耐えうる心を育てる。
- ・職員がそれぞれの持ち場で、自己の仕事の役割をしっかりと理解し、やりがいを持って勤務することができるよう方向性を明確化していく。(キャリアアップ制度の構築)

当園の特色を生かし、地域に愛され、地域に根ざした園づくりを目指し、全職員で共通理解を深めながら「思いやりの理念」を基本に令和3年度も努力していくことができるよう、熱い思いを寄せ取り組んでいきます。

## 令和4年度 仲井真こども園の事業計画と主な取り組み

はじめに

仲井真こども園として開園5年目を迎える令和4年度の事業においても、法人の基本理念「思いやり保育」を基本に据え、「保育は愛なり、愛は力なり～入所するすべての乳幼児の最善の利益を図り、個としての人権・人格を尊重する～」という教育・保育理念に込められた思いを全職員で共通理解した上で、今年度の事業に取り組んでいきたいと思ひます。

教育・保育については、今年度もコロナ禍による制限もありますが、別紙「令和4年度教育及び保育の内容に関する全体的な計画」に基づいて、地域や小学校とも連携を取りながら、職員一同力を合わせ取り組んでいきたいと思ひます。

職員の育成については、毎月の園内勉強会を始め、那覇市や各団体が主催する研修会に参加(オンラインも含め)し、職員の資質向上に繋げていきます。また、アンケート形式による職員の意識調査やチューター制度も活用しながら、施設長を中心に職員のメンタルヘルスケアにも取り組んでいきたいと思ひます。

当園は、那覇市と法人で5年間という期間の協定を交わした「公私連携のこども園」ですので、来年の3月31日に期限を迎えることとなりますが、双方から特に申し立てが無い場合は、協定の更新を交わすこととなります。園舎の建替えも含め、施設の運営状況、法人全体の運営状況も確認しながら、来年の更新について理事長を中心に検討し早めに決断することとする。